

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立玉幡小学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語・算数・理科ともに、全体として全国をやや下回る正答率となっています。
- ・国語では、『話すこと・聞くこと』の「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」の正答率は全国平均を上回っており、日常の学習活動の中で、子どもたち一人一人が自分の考えをもち、子ども同士または教職員との対話を通じた取組の成果があらわれていると考えられます。一方で『知識及び技能』における適切な言葉を使ったり、文章の中で漢字を正しく書いたりすることに課題が見られます。
- ・算数では、『変化と関係』の「百分率を用いた表し方を理解し、割合などを求めること」は、全国平均を上回っており、継続して反復練習に取り組んできたことで基本的な知識・技能が身に付いてきていることを示しています。しかし、『数と計算』における目的に合った数の処理の仕方を考えたり、表や式、言葉を用いて理由を記述したりする思考・判断・表現について課題がみられます。
- ・理科では、知識・技能を問う問題では正答率が全国平均を上回ったり、差が少なかったりと、知識が定着してきていることを表しています。一方、「実験や観察で得た結果から、自分の考えを説明すること」に課題がみられます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「学校の授業以外に普段1時間以上勉強する」「学校が休みの日に1時間以上勉強する」とした児童の割合が全国に比べ高いです。また、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用した」について高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「普段2時間以上ゲームをしたり、SNSや動画視聴などをしたりしている」と答えた児童の割合が全国と比べて高いです。「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた児童の割合が低いです。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・読んだり、聞いたりしたことをもとに考え、自分が考えたことを話したり、書いたりする「言語活動」を全教科の授業に取り入れ、「対話的な学び合い」の授業につなげます。
- ・子どもたちの語彙力を高めるために、モジュールの時間を中心に漢字学習に重点を置くと共に、読書活動も継続的に行います。
- ・子どもたちの実態に即した数学的思考力や科学的に物事を見る力が伸張するような授業展開を工夫し、子どもたち一人一人の基礎・基本の定着を図ります。
- ・玉幡小学校学習ルールや学習規律を徹底し、子どもたちが安全・安心な場で集中して学習できる授業づくりに取り組みます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・宿題や自主学習などの家庭学習を、丁寧で前向きに取り組めるように言葉かけをしてください。
- ・ゲームやスマートフォン等を使うルールを親子で話し合って決め、「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけた生活を心がけましょう。
- ・子どもの話に共感しながら、一日の出来事などについて親子で会話をする時間をつくりましょう。
- ・家族でいろいろな本を読んだり、音読を聴いて励ましたりしてあげてください。